民生環境水道常任委員会行政視察報告書

中　山　富　夫

〇群馬県前橋市

子ども家庭総合支援拠点について

【所　見】

児童虐待は昔からあったが、今の時代はおじいちゃんやおばあちゃんと同居する多世帯型から核家族世帯型と移り変わり、時代とともに子育て環境も変わってきているように思われる。決して核家族が悪いと言っているわけではないが、同居や近所に住んでいる祖父母に、親として子育て相談や悩みを打ち明けられる環境が希薄しているように思う。また、若い世代の子育て環境も変わってきているのかも知れないが、夫婦のどちらかが悩んでいるのに、つい仕事にかまけて相談にも応じず自分さえよければといった風潮が見え隠れしているように思われる。

まえばし子ども家庭総合支援拠点は、子どもに関する事務手続きが、市役所の関係各課に行かず、１カ所で全てできるというメリットがあること、また、新たに施設を建設せず、従来からある保健センターを利活用したことである。前橋市は中核市であることから児童相談所の設置が可能であるが、市単独で運営するには職員が65人程度必要になるため､県と連携して活動しているとのことであった。

説明を聞く中で、前橋市の担当課長・係長は生活保護の担当者としてそれぞれ20年・15年と従事されていたとのことであり、家庭内の事情に詳しいといった長年の経験により相談業務にも精通しているため､対応できているものと思われる。

本市においても２～３年で職員の配置異動があるが、業種によっては長い経験が必要となることから、今後それらを加味して職員の配置をお願いしたいと感じている。また、各団体との連携について、民生委員・児童委員と定期的に勉強会を行っているとのことであるが、医師会や自治会、地域婦人団体連絡協議会等との会合など、細やかな話し合いが必要と感じた。

今の時代、核家族化と同時に、話一つとってもすぐにプライバシーの侵害などと騒がれ、隣人に対して余計に無関心になってきているのが現実であり、人間の温かさや心が希薄になっているように感じている。

○新潟県上越市

上越市クリーンセンターについて

【所　見】

本市の南部クリーンセンターは稼働開始から35年が経過し、これまでダイオキシン対策を初めとする施設の改修等をその都度図ってきたが、老朽化が進んでおり、新クリーンセンターの建設が早急に検討されているところである。

そこで今回、上越市クリーンセンターを視察させていただいた。同クリーンセンターは供用開始が平成29年10月１日で、本市と同じくストーカ式焼却方式、全連続燃焼式焼却炉で１日170トン（85トン／日・24時間×２炉）の処理能力を有するものである。処理方法はストーカ焼却炉で焼却し、溶融炉（プラズマ式灰溶融炉）から発生する飛灰は薬剤処理され、スラグの放射線物質濃度を低減して最終処分場に搬出するものである。また、焼却炉のボイラーで熱回収され、発生した蒸気は蒸気タービン発電に利用するほか、場内外の熱源として利用しており、隣接している施設「上越リゾートセンターくるみ家族園」の温浴施設として利用されている。発電能力は4,600キロワットで、これらの施設で使用するほか、余った電力は新会社に売電しているとのことである。また、ゼロカーボン社会として、ＣＯ２の削減や資源の有効利用、その中の一つに冷却水に使った水を循環して再利用しきれいな水で排水しているとのことであった。

事業方式は公設民営のＤＢＯ方式で、施設の建設に加えて20年間の施設運営も民間が行っており、一括管理体制で安全に運営されていた。同方式の最大の利点は事業費が抑制されることで、また、一括管理体制で安全に運営できるようであり、本市においても設計、建設、運営・維持管理を一括で発注する同方式がよいと思われる。